

Another HERO

舞台裏のヒーローたち

観る者を魅了するコース上でのマシンの競演、F1。
その裏にはじつにさまざまな分野で働く人たちの大いなる努力がある。
そんな、縁の下からF1を支える人物にスポットライトを当てる！

プレスを束ねる 世界の「情報発信源」

文=ピーター・ヌゴール text by Peter Nygaard
翻訳=井元智晶 translation by Chiaki Inomoto

Profile No.8

Name	アレクサンドラ・シーレン
Nationality	ドイツ
Affiliation	FIA*
Job	プレス担当
Salary	教えない!



G.P. Photo(2)

「去年の11月に入ったばかりだから、この仕事をあまり長く経験しているわけではないのでも、素敵な仕事よ。レースの期間中だけ働いて、そうじゃない。当然、レースとレースの間には、バリにあるFIAの広報部門でいろいろ仕事をこなさなければならなくて、やることはもういくらでもあるわ。F1や他のFIA選手権へのメディアの認可なんかもうね。ひとつのグランプリだけで500もの申請があるんだから。それ全部に目を通して、クレデンシャルを出す人、出さない人を決めるのは大変！」

FIAの広報部門には、コミュニケーションズ・ディレクターのリチャード・ウッズを筆頭に7人ほどが勤務している。「でもレースに姿を見せるのはそのなかの2人か3人。クリステルが私がプレス担当で、バット・ペアーがカメラマンの担当。リチャード・ウッズも来られるときはレースに来て、コミュニケーションズ・ディレクターの仕事をしているわね」

「グランプリの間は、メディアセンターには25人くらいのスタッフがいて私たちの仕事を手伝ってくれている」とはいえ、グランプリ期間中、メディアセンターのすべてを円滑に機能させるのがシーレンの仕事である。

「この仕事には、たくさんのが関わってくるのよ」と笑いながら話すシーレン。「私の仕事のなかで重要なもののひとつが、メディアセンターのラックに、そのグランプリ期間中のすべてのリザルトを入れて、ジャーナリストが見られるようにしておくこと」

「ときには戸惑うような変な質問もたくさん！」

グランプリ中、すべてのドライバーの、すべての周回のタイムが計測されるのももちろんのこと、じつにさまざまなリソースが出されている。それをそれぞれコピーし、メディアの手に渡るようにラックに入れるのが彼女の仕事だ。金曜日の最初のセッションで出されたリザルトは、たいてい日曜の朝にはなくなってしまう。すべての用紙が揃っているかどうかについての責任は、最終的に彼女が持つことになる。

「大事なのは記者会見のコメントのリリースをできるだけ早く配ること、それからレース後には事故報告書も出さなければならない。いちばん忙しいのは土曜日からね。レースの準備があるから。それに、予選の後は上位3人をまずテレビ会見のためにスタジオに連れて行かなくてはならない。終わったら、そのまま記者会見のためメディアセンターに送り届けるのも私の役目」

地元主催者に向けては、レース前、FIAから詳細な指示マニュアルが送られるが、それでも、小さな（ときには大きな）問題が生じることがある。そうだったこともシーレンたちが解決していかねければならない。

「メディアセンターのテレビ画面に関する技術的な質問から、ジャーナリストの突飛な質問まで内容はいろいろ。さつきも言ったように、私はまだこの仕事を始めて間がないけれど、それでも変な質問がたくさんあったわよ。このインタビューではちょっと言えないけどね！」

「FIAのこの仕事は並んでいるのは何人か、交替で出かけている。それぞれシーズンの半分ずつを見ている感じね。たとえば、1レースおきに行くわけではないわ。たとえばドイツで開催されるレースには私が2つとも行くの。私がドイツ人だから。モンテリオールはフランス語圏だからクリステルの担当でもこのシステムが絶対というわけでもないわね。マニキュールには私が行くことになっているし」

言語と経済を学んだシーレンが、最初にモータースポーツに関わったのは93年、トヨタ・モータースポーツでの仕事だった。

「当時、トヨタはワールドラリー選手権に参戦していて、私は96年までチームで働いていた。楽しかったわね」と振り返る。

その後、トヨタを辞し、彼女はKHPに就職した。レースを専門としたPRとスポンサーシップの代理店である。

「大きな一歩だった。ロンドンに移り、たくさんのKHPのクライアントと仕事をした。ワールドラリー選手権や国際ツーリングカー選手権、それからちょっとだけGTレース

見事に役立っている。その上の経験が、FIAでの仕事に

「去年の11月に入ったばかりだから、この仕事をあまり長く経験しているわけではないのでも、素敵な仕事よ。レースの期間中だけ働いて、そうじゃない。当然、レースとレースの間には、バリにあるFIAの広報部門でいろいろ仕事をこなさなければならなくて、やることはもういくらでもあるわ。F1や他のFIA選手権へのメディアの認可なんかもうね。ひとつのグランプリだけで500もの申請があるんだから。それ全部に目を通して、クレデンシャルを出す人、出さない人を決めるのは大変！」

FIAの広報部門には、コミュニケーションズ・ディレクターのリチャード・ウッズを筆頭に7人ほどが勤務している。「でもレースに姿を見せるのはそのなかの2人か3人。クリステルが私がプレス担当で、バット・ペアーがカメラマンの担当。リチャード・ウッズも来られるときはレースに来て、コミュニケーションズ・ディレクターの仕事をしているわね」

Alexandra Schieren's Race-day

- 7:00 ホテル出発
- 8:00 サーキット到着
- 9:00
- 10:00 トラブルおよび事務処理
- 11:00
- 12:00
- 13:00
- 14:00 オフィスでレースの準備
- 15:00 メディアセンターでレース観戦
- 16:00 トップ3ドライバーのプレスカンファレンスへの誘導、進行
- 17:00 事故報告書とプレスカンファレンスのまとめ
オフィシャルリザルトの確認後、サーキットを離れる
- 18:00

